

南海トラフの巨大地震モデル検討会  
第2回会合

岡村真委員提供資料

## 2-2 過去の地震発生履歴から見た地震サイクルの多様性の評価



南海トラフ沿岸域の湖沼に残された津波堆積物から、過去の南海地震の履歴を明らかにする。

過去数千年間という時間間隔の中で、地震サイクルを検討

## 22年度の成果 (1)調査地点



22年度は四国東岸の田井ノ浜の池と蒲生田の池において調査を進めた。

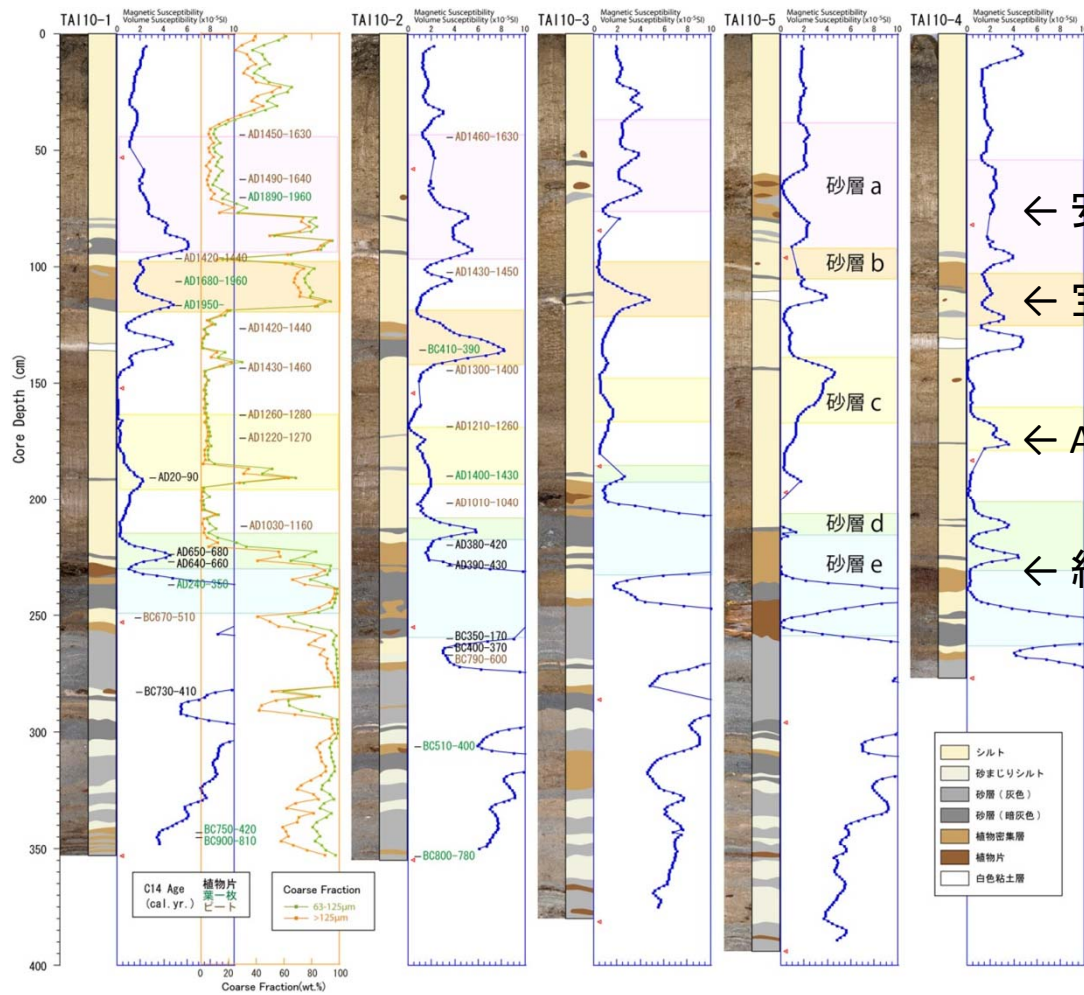


コア試料の採取地点



さらに土佐湾の蟹ヶ池のイベントとの対比を行った。

# 22年度の成果 (2) 四国東岸、田井ノ浜の池



田井ノ浜の池のコア試料

4~5回のイベントがあるが、年代は確定できていない。

← 安政？

← 宝永？

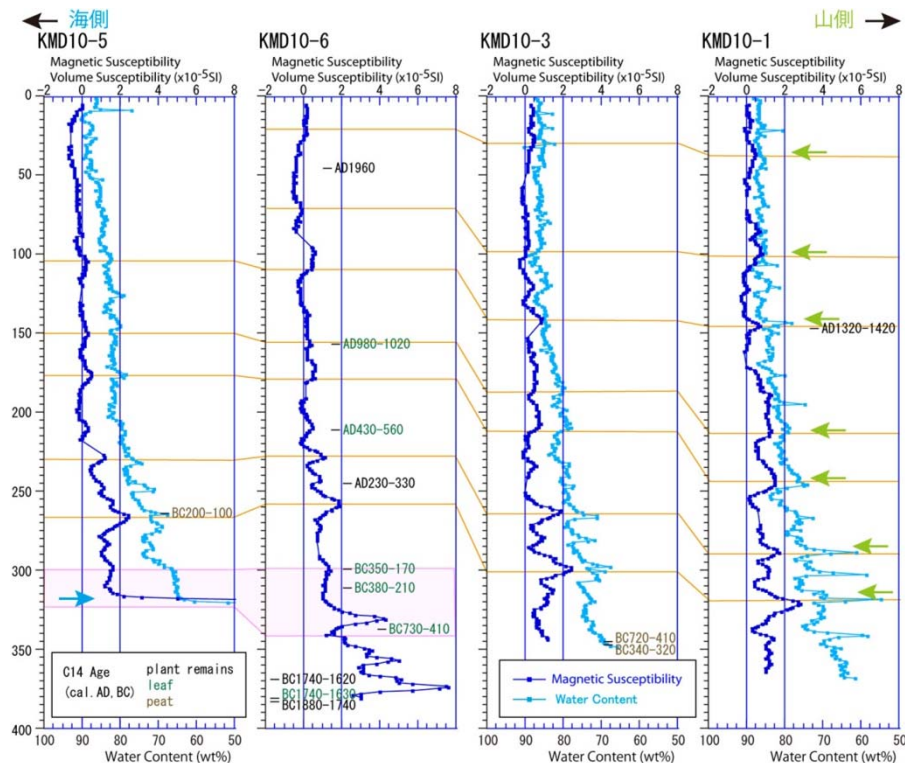
← AD1000年以降

← 約2000年前？

コア試料の上位2mは主に泥、下位1.5mは主に砂によって構成されている。

約2000年前を境界に、堆積環境が大きく変化





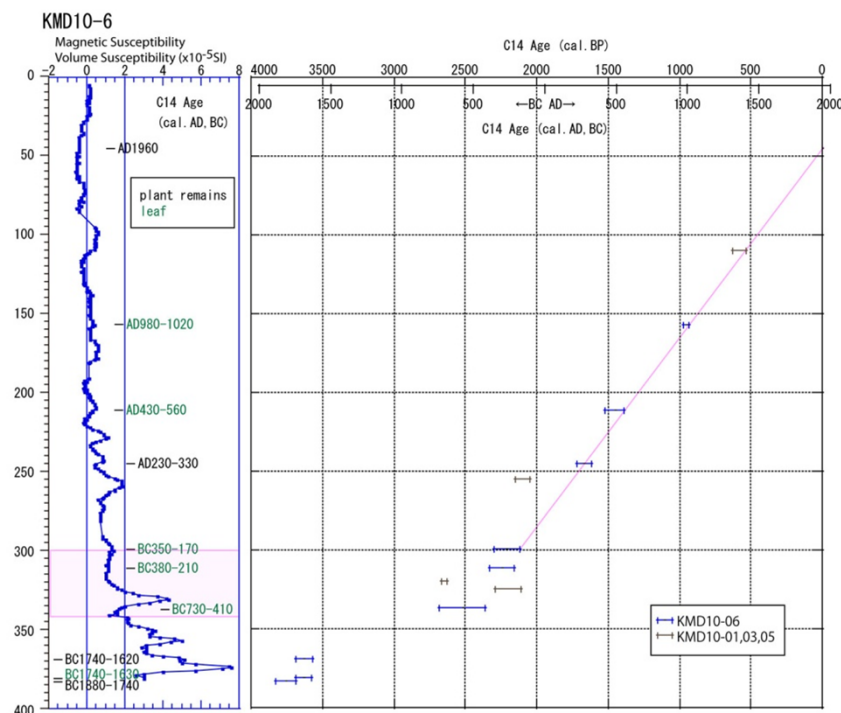
蒲生田の池のコア試料、帯磁率と含水率

約2000～2500年前に一回のイベント。  
このイベントにより、約1000年分の下位の地層が削り込まれ欠落している。

約2000～2500年前にイベント一回

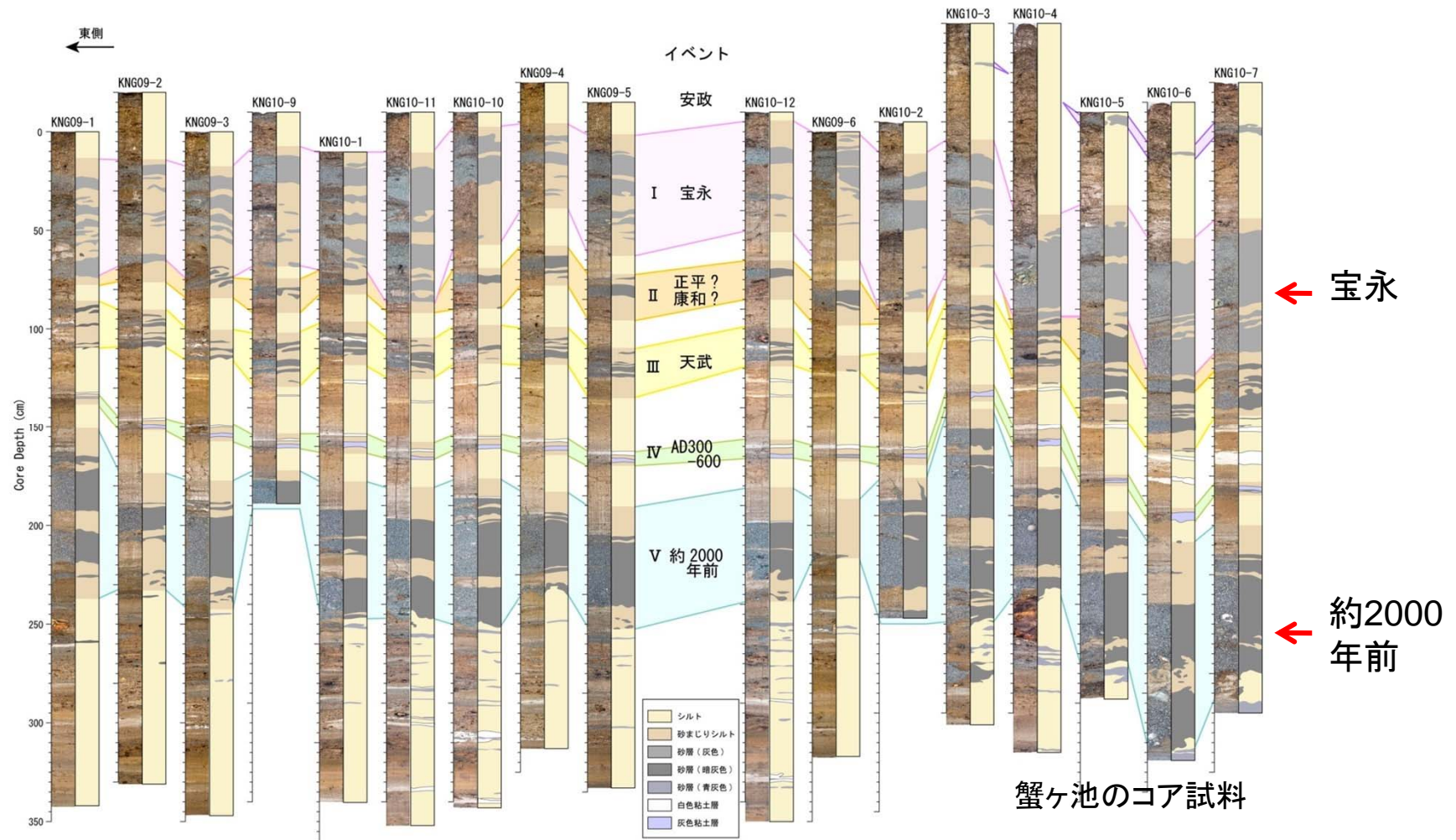
## 22年度の成果 (3) 四国東岸、 蒲生田の池

過去2000年間はイベントなし。  
山側からの小さい洪水は見られるが、  
静かに堆積作用が継続している。



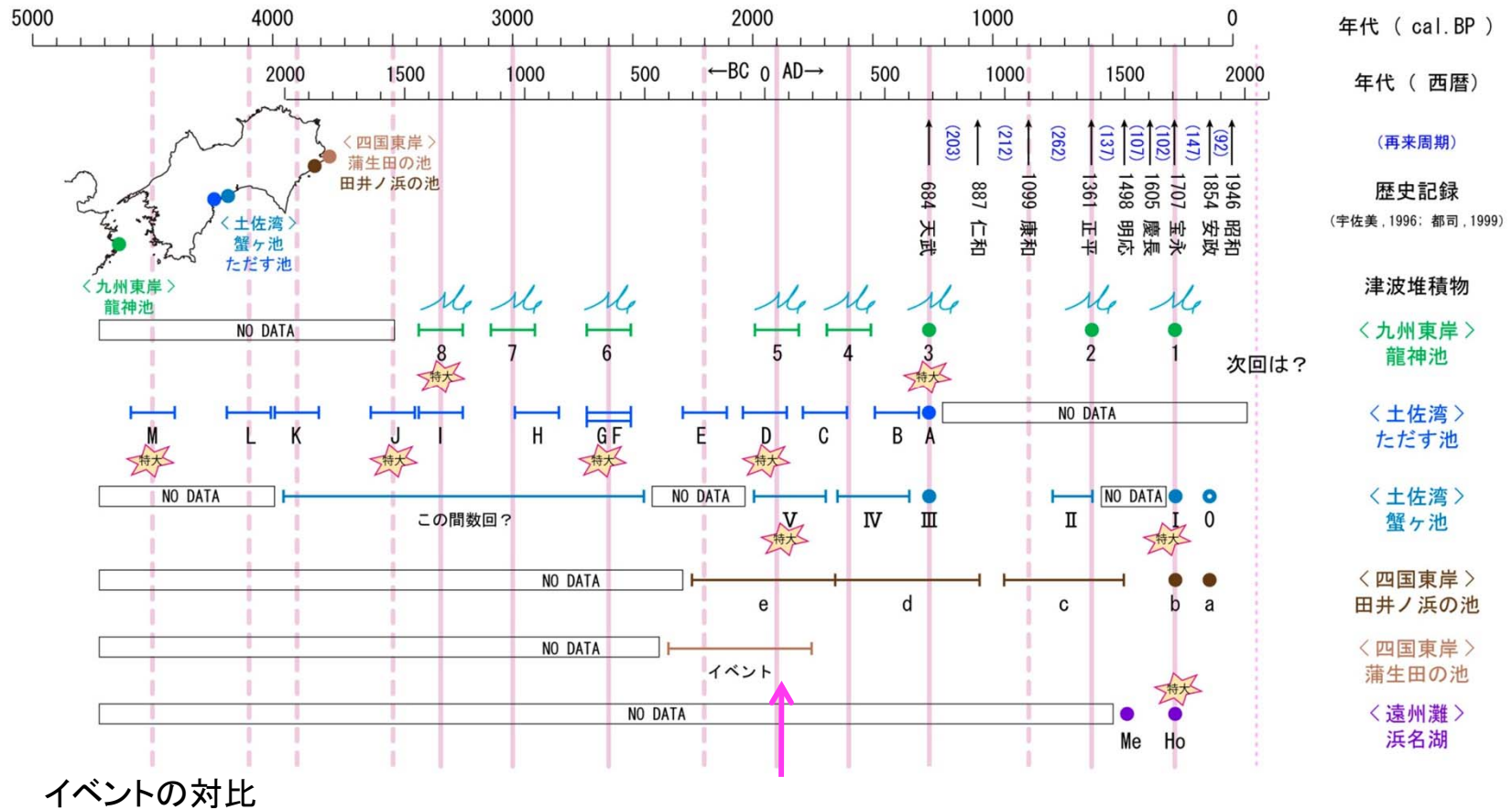
蒲生田の池のコア試料、年代測定結果

## 22年度の成果 (4) 土佐湾、蟹ヶ池



約2000年前のイベントは宝永地震津波よりも一回り大きい可能性

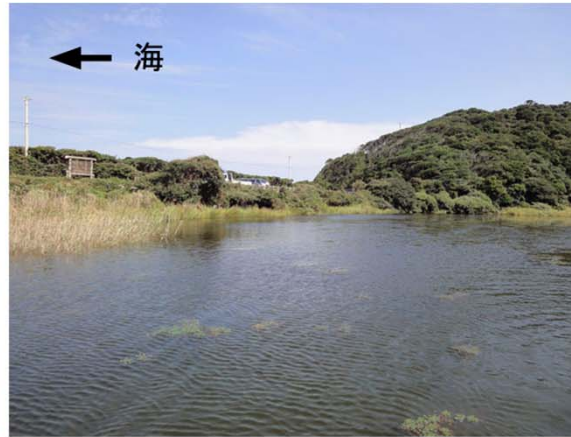
# 22年度の成果 (5) 過去約4000年間の南海地震履歴



約2000年前に土佐湾では巨大津波、  
四国東岸では大きな堆積環境の変化が見られる



## 平成23年度の計画 (1) 四国東岸の津波堆積物調査



四国東岸の蒲生田の池においてより深いコア試料を採取し分析。

2000年前よりも古い時代の履歴を明らかにする。



蒲生田の池とコアリング風景

約2000年前のイベントを詳細に検討



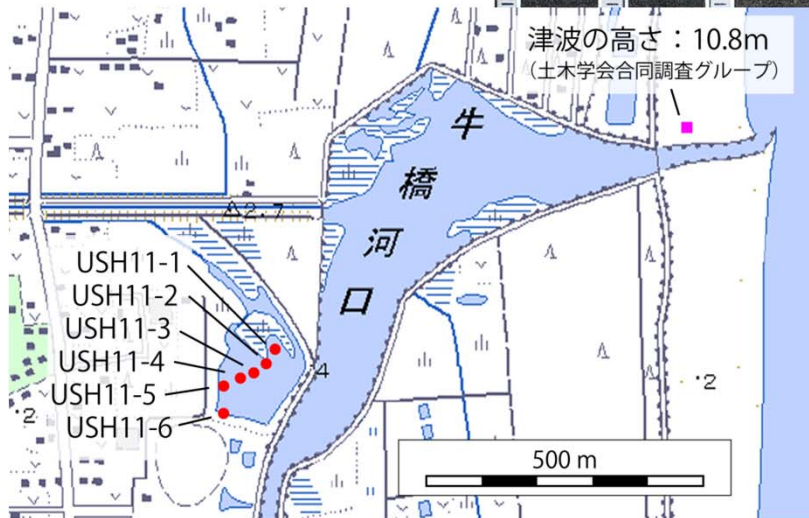
# 平成23年度の計画 (2) 東北地方太平洋沖地震の津波堆積物調査

仙台平野南部、亶理町牛橋河口

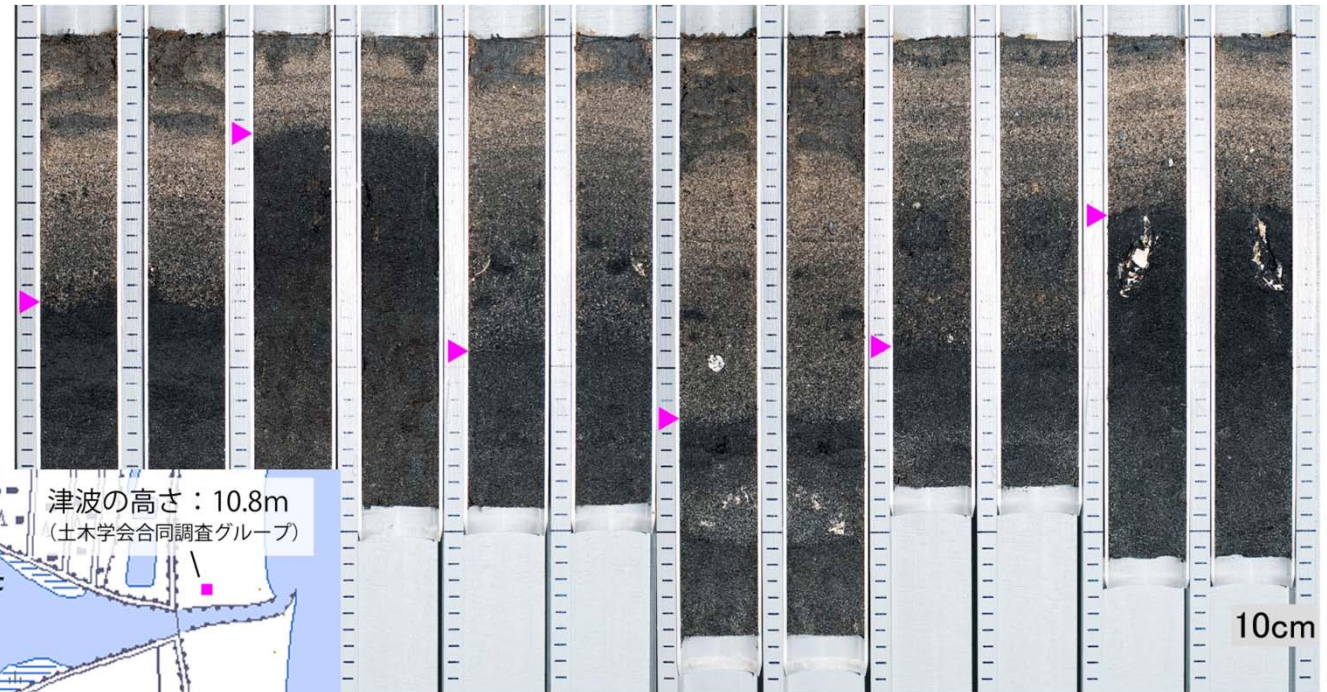
津波砂層の厚さと  
津波高の関係を調査

今回の  
津波堆積物

コア試料の採取地点



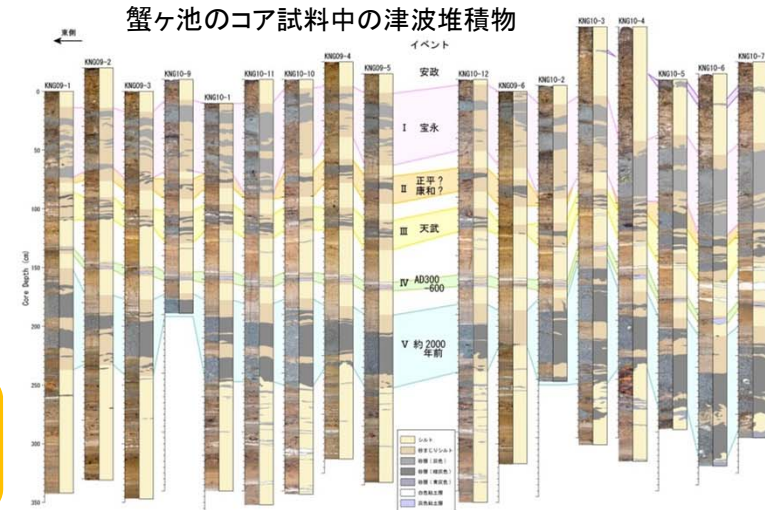
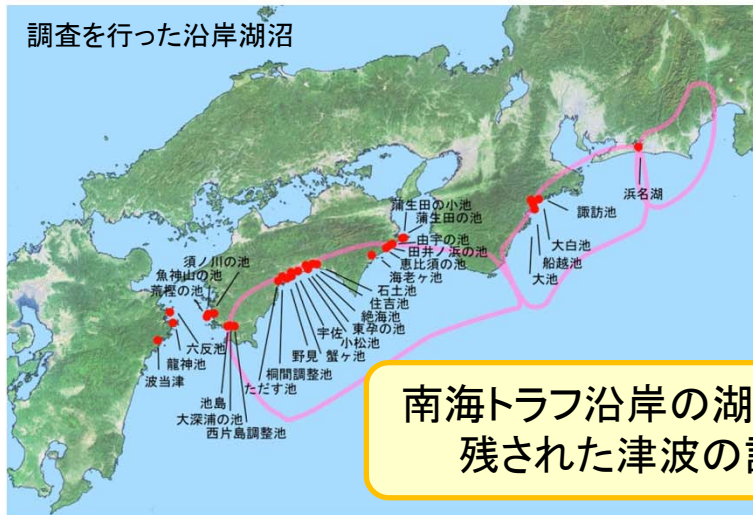
USH11-1    USH11-2    USH11-3    USH11-4    USH11-5    USH11-6



コア試料の写真

津波堆積物の層厚から、  
過去の津波高の復元を目指す！

## 2-2 過去の地震発生履歴から見た地震サイクルの多様性の評価



南海地震については、過去4000年程度の履歴を読むことが可能

・宝永クラスは300年に一回程度  
 ・約2000年前の津波は宝永よりも大きい？(四国沿岸域)

